

# 「道庁 派遣物語」

## ～道職員活躍事例集(派遣編④)～

【今回のテーマ】

民間企業への派遣



## はじめに

この活躍事例集は、各所属・職員のご協力により、道職員の様々な派遣先での経験や子育て実体験を基にして、職員や今後道職員を志す方へのメッセージなどをとりまとめたものです。

第2弾では、派遣職員に焦点を当てご紹介することとしており、第4回目の今回は、民間企業へ派遣された経験をもつ職員をご紹介します。

職員の皆さんには、派遣職員が経験した道庁と異なる仕事の進め方や職場風土、その際の感想などについて、今後の仕事の進め方の参考にしていただきたいと思います。

また、掲載職員の仕事の内容も紹介しておりますので、これから北海道職員を目指す方々にとって、道職員の魅力について、さらに一層の理解を深めていただけると幸いです。

平成27年5月28日

総務部人事局人事課

# 目次

- 農政部農村振興局農村設計課【行政】  
主任 安田 あきの ..... 3  
株式会社セイコーマート
- 人事委員会事務局総務審査課【行政】  
主任 下村 英明 ..... 7  
トヨタ自動車株式会社
- 経済部産業振興局産業振興課【行政】  
主任 深井 一未 ..... 11  
楽天株式会社
- 経済部総務課【行政】  
主任 相楽 祐介 ..... 15  
伊藤忠商事株式会社
- 環境生活部環境局循環型社会推進課【環境科学】  
主任 石田 千晶 ..... 19  
北海道コカ・コーラボトリング株式会社
- 環境生活部くらし安全局文化・スポーツ課【行政】  
主任 滝下 麻耶 ..... 23  
株式会社北海道フットボールクラブ
- 経済部総務課【行政】  
主任 木村 義寛 ..... 27  
株式会社日本政策投資銀行

農政部農村振興局  
農村設計課

(H19年採用・一般行政)

農村設計課



主 任

安 田 あ き の

### ○ 職務経歴

平成19年 4月 根室支庁産業振興部建設指導課  
平成22年 4月 水産林務部水産局水産振興課  
平成25年 4月 **総務部総務課（株）セイコーマート派遣**  
平成26年 4月 農政部農村振興局農村設計課

### ○ 現在の仕事

現在、私が所属している農村設計課の農村企画グループでは、農村を対象として各種施策を立案・実施しています。例えば、人口が減少し高齢化が進んでいる北海道の農村における課題や既に行われている取組等を調査し、地域づくりの実践者にはかりながら、とるべき施策の方向性と対策の検討を行っています。

私が担当する事務としては、調査結果のとりまとめや会議の開催に関する事務などです。一人で施策を立案し実行していく能力が今の自分には足りないと思っているので、地域のことをよく知り、調査や施策立案の理論・手法などについて学んでいます。

仕事を通じて地域づくりの実践者とお会いし、貴重なお話を伺うことができる機会が多いので、とても恵まれています。

## Q 派遣を打診された時の感想

派遣を打診された時は、水産林務部水産振興課で水産資源(魚)を増やすために行われる種苗放流用の種苗生産に対する補助事業を担当していましたが、水産業に関わる業務を行う中で、漁業者がとった魚が食卓に上るまでの流通・販売の経路について興味を持ちました。

派遣を打診された時には自分で大丈夫かなと思いましたが、派遣されれば、身近な存在であるセイコーマートの店舗がどうやって運営されているのか、店舗を支えるシステムがどうなっているのかなどを実際に見て学ぶことができると思い、即決しました。



リニューアルに携わった「9種の具材のあんかけ焼きそば」  
(季節商品のため、現在は販売終了)

## Q 派遣先での仕事の内容、印象に残っている成果など

セイコーマートは北海道と関東におよそ1,100店舗を展開するコンビニエンスストアチェーンで、1日の客数は平均で約65万人です。良質な商品をお手頃な価格で提供することを使命としており、ワインやホットシェフ、100円総菜、牛乳や野菜といった生鮮食品などの看板商品があります。また、飲料や食品、菓子などの自社開発商品(リテールブランド商品)にも力を入れています。

セイコーマートの関連会社には、総菜、菓子、乳製品、水産加工品等の製造を行う会社や農業生産法人、物流センター等があり、原料調達、製造・加工、配送、販売までを一貫して行う体制が構築されています。これが、良質でお手頃な商品をお客様にお届けできる理由となっています。

セイコーマートでの仕事の内容としては、4月から5月にかけては新入社員研修や店舗研修、関連会社見学など、セイコーマートグループの全体像がつかめるような研修プログラムを組んでいただきました。

6月以降は商品部に籍を置いて、商品開発や仕入、販売企画に関する業務を体験させていただきました。商品開発は、関連会社と協力して総菜等の開発を行う業務、仕入は飲料、食品、菓子等のメーカーとの商談やリテールブランド商品の開発業務、販売企画は季節感をふまえた売場づくりやキャンペーンの実施など、プロモーションに関する業務です。

商品開発では、あんかけ焼きそばのリニューアルや北海道産鮭の南蛮漬け等の発売に関わらせていただき、商品開発の一連の流れ(企画から原価の計算、発売後のデータ分析まで)を学びました。研修期間中に一つ商品を発売することが目標でしたが、最初は何を作ればよいのかがわからず悩みました。なぜ発売するのか、なぜこの価格か、なぜこの味付けなのかなど、多くの“なぜ”を自問自答しながら商品を作っていかなければならないということを学びました。試作品を何度も作って下さった関連会社のシェフを始め、多くの方の支えにより商品を発売できた時には、ほっとしました。

## Q 風土・仕事の進め方など道庁との違い

セイコーマートでは、自分が開発に関わった商品が実際に店頭で並ぶなど、仕事の成果が目に見える形で現れます。毎朝、前日の売上が読み上げられ、すぐに対処していくスピード感があります。商品部では一つのカテゴリーを一人で担当しているなど、社員一人ひとりに任されるものが大きく、業務量も多いです。何を指すか、何が大切かということをいつも意識しており、会社全体が非常によくまとまっているという印象があります。人材育成の面では、先輩が後輩にしっかりと仕事を教えて、2～3か月後にはその後輩が一人で仕事ができるようになっています。

一方、道庁の仕事は分野が多岐にわたっています。自分で何かを作り上げるというよりは、活動している団体に対する支援(補助金等)や規制(許認可等)など、間接的に影響を与える仕事が多いため、比較的成果が見えにくいかも知れません。若いうちは一つの仕事をまるまる任されることがなく、その一部を担当することが多いような気がします。しかし、部分的な仕事しかしていないと、全体を見通して考えることが減り、機械的・作業的になってしまうことがあり、そうならないように意識することが大切で、また、セイコーマートのように、一つの仕事を任せることによって人材を育成していく方法にも学ぶべき所があると思います。



セイコーマートグループの水産会社「株式会社 北嶺」を視察させていただき、標津漁港も見学させていただきました。

## Q 外から見た道庁について感じたこと

目標に向かって様々な部署が一丸となって動く民間企業と違って、道庁は業務範囲が多岐にわたるために、例えば、他の部の政策が見えにくいところがあると思います。立場や利害の異なる方々の中で、どのような課題を設定し、どのような施策を行っていくべきかの答えを見つけていくことが難しい点であり、やりがいのあるところではないかと思えます。

## Q 派遣先から得てきたもの

考え方です。商品を発売するためには、なぜそれを発売するのかなどを突き詰めて考えなければいけないということや、単に他者のまねをしたのでは本質を理解することができないので、何でも自分でやってみることが大切だということ、現場(売場)をよく見て研究することが大切であるということなどを学びました。こうした考え方は行政の仕事においても当てはまると思えます。

### Q 帰任後の派遣先との付き合い

今のところ、仕事上では特になく、メールのやりとりがある程度です。個人的にセイコーマートで買い物をする時に売場を見ますが、新商品が発売されていると、作った人の顔が思い浮かび、どうやって作ったのか、どんなこだわりがあるのかなどを考えます。

### Q 道庁と連携を図るべき事項など

セイコーマートと北海道は包括連携協定を締結しています。セイコーマートの店内放送やポスターの掲示などで、道政の広報にご協力いただいています。また、野菜を食べようキャンペーンなど北海道の施策と連動した商品展開なども行っています。

セイコーマートは北海道の企業として道内に1,000店舗以上を出店しており、地域の生活を支えるとともに雇用の場となっています。同じ北海道を基盤とする企業・組織としてこれからも連携を図っていくことが大切だと思います。



最終出社日にいただいた花束

### Q オフやプライベートの思い出


セイコーマートは社内行事が盛んで、活気があります。私も、花見や運動会、湖水浴(焼き肉)、観楓会などの社内行事に参加させていただきました。

それから、オフではないですが、社員の皆様にはとても親切にご指導いただきました。最終出社日には商品部の皆様から花束とメッセージカードを頂き、とても感動しました。

### Q 派遣を終えての感想、後輩への派遣のすすめ

派遣という形の研修があることをセイコーマートの社員の方からもうらやましがられました。ある会社に籍を置いたまま他の企業で実地の研修を受けるなんていうことは滅多にできるものではありません。本を読んで学ぶことも大切ですが、百聞は一見にしかずで、実際に体験することから多くのことを学ぶことができると思います。これからも現場をよく知り、現場から学ぶことを心がけていきたいです。

興味のある方はぜひこの制度を活用していただきたいです。



人事委員会事務局  
総務審査課

(H15年採用・一般行政)

主 任

下 村 英 明

## ○ 職務経歴

平成15年12月 釧路支庁総務部総務課  
平成16年 5月 釧路支庁税務部課税課  
平成18年 5月 総務部人事局法制文書課  
平成21年 4月 建設部住宅局住宅課  
平成23年 4月 **東京事務所（トヨタ自動車(株)派遣）**  
平成25年 4月 人事委員会事務局総務審査課

## ○ 現在の仕事

人事委員会事務局総務審査課で、勤務条件及び公平審査に関する仕事をしています。

勤務条件では、主に勤務時間・休暇制度に関する事務を担当しています。休暇の取得状況のように、データを図表にまとめる時など、企業派遣の経験が役に立っていると感じています。

また、公平審査では、審査請求事案の審理の補助を担当しており、審理が円滑に進行できるよう、わかりやすい資料の作成を心がけています。



## Q 派遣に応募した理由

住宅課で道営住宅の管理に関する仕事をしていました時、入居者の方へ満足度調査(アンケート調査)を行う機会がありました。しかしながら、個々の設問の回答を集計しただけで終わってしまい、自由意見を含めて調査結果を十分に活用することができませんでした。

この時、民間企業であれば、こうした調査結果をどのように活用し、顧客満足度の向上につなげているのか知りたいと思ったことが、派遣に応募しようと考えた直接のきっかけでした。



他の研修生と鞍ヶ池記念館にて

## Q 派遣先での仕事の内容、印象に残っている成果など

私は、研修期間中、トヨタ自動車のTQM推進部に所属していました。

TQMとは、総合的品質管理(Total Quality Management)を意味しており、従業員一人ひとりの仕事の質を高める活動のことです。そのために人と組織の活力も向上させる取り組みもしています

具体的な業務としては、新任のグループ長を対象としたマネジメント研修(社内研修)の企画運営や、マネジメント改善のための個別職場支援の企画を担当していました。

とりわけ、マネジメント研修の企画運営業務では、研修コンテンツの作成にも携わり、前年度の研修受講者へのヒアリングやアンケート結果などから、新任のグループ長が職場運営において何に困っているのか、どういう情報を欲しいと思っているのかを徹底的に分析し、コンテンツの改善に取り組みました。

社内には様々な部署があり、開発、設計、生産技術、製造、販売、事務など、各領域ごとに、どのような仕事をしているのか、どのような職場風土なのか、社内事情も理解しなければならず最初は戸惑いましたが、コンテンツを改善した箇所が研修実施後のアンケート評価でも向上していた時は、本当にうれしかったです。

お客様(研修受講者)の「生の声」を真摯に聞くことの重要性を認識するとともに、研修生という立場であっても、コンテンツに込めた思いはお客様に伝わるものなのだと実感しました。

## Q 風土・仕事の進め方など道庁との違い

トヨタと言えば「カイゼン(改善)」が有名ですが、実際に社内では、製造現場のみならず事務職場においても、日々の業務のなかで積極的に「改善」が行われていました。

私が配属されていた部署では、部の共通フォルダに「改善ボード」というエクセルシートが用意されており、日常の業務の中で気が付いた「改善」を書き込むようになっていました。「改善」の内容は、例えば、ケアレスミス減らす工夫をしたなど、どんな小さなことでも構いません。

「改善ボード」に記入すると、上司が必ずコメントを返すことになっています。そして、その「改善」の内容をグループミーティングで他のメンバーに紹介し、さらに、優れたものは部全体の共有会で発表することもあります。

道庁でも、多くの職員が、日常の業務のなかで「改善」を行っています。そうした「改善」を個人レベルで実行して終わるのではなく、職場内で「見える化」し、その成果を職場全体で共有し、職場全体で褒めるという風土を、道庁にも是非取り入れていきたいと考えています。



トヨタ会館で他の研修生と記念撮影

## Q 帰任後の派遣先との付き合い

北海道と愛知県で離れていることもあり、残念ながら、数回メールを交わしただけです。今後も、当時お世話になった皆様には、帰任後の状況を定期的に報告できればと思っています。

## Q 外から見た道庁について感じたこと

トヨタ自動車の職場の皆様も、北海道には好印象をもっていただいております、とりわけ食と観光には関心が高いことが窺えました。

派遣先では、道庁の施策について情報を得る機会が限られておりましたが、食や観光のように道外の方も関心が高い分野は、より積極的な情報発信があるとよいと思いました。



トヨタAA型

(最初期のモデルで、アメリカ車を手本にゼロから開発が行われた)

## Q オフやプライベートの思い出

オフではありませんが、研修期間中に、社員の方のご厚意により、トヨタ自動車堤工場のプリウスの生産ラインを見学させていただくことが出来ました。

約60秒おきに次々と流れてくる製品に対して、一つ一つの工程ごとに、作業が無駄のない動線で確実に組み立てて行く光景を目の当たりにし、1台の車が出来上がるまでに多くの人の知恵と熱意が込められていることを、改めて実感しました。



3代目コロナ

(品質管理を確立したモデルで、名神高速道路における連続10万キロ走行試験に成功した)

## Q 派遣先から得てきたもの

「お客様目線」で仕事の目的を考えることです。

現在の人事委員会事務局の仕事は職員に対するものが中心ですが、個々の業務が職員の皆様にどのような価値を提供しているのかを自分なりに考えて、業務に取り組むようにしています。

さらに、その仕事のアウトプットが最終的にどのような形で道民一人一人とつながっているのか、広い視野と想像力を持つことにより、お客様の立場に立った行政サービスの実現に資するよう努力したいと考えています。

## Q 派遣を終えての感想、後輩への派遣のすすめ

ミーティング中心の仕事の進め方、図やグラフを活用した報告書の作成など、道庁とは全く異なる職場風土でしたが、見ることも聞くこともすべてが新鮮で、大変充実した研修期間を過ごすことが出来ました。

また、情報公開に対応した文書管理など、道庁の優れている部分にも改めて気付くことが出来ました。

後輩のみなさんのなかで、より良い仕事の方法のヒントを探している方は、民間企業派遣研修に是非応募されることをおすすめします。優れた製品やサービスを実現している企業には、そのようなヒントがたくさん詰まっています。積極的にチャレンジしてみてください。

経済部産業振興局  
産業振興課

(H13年採用・一般行政)

主任

深井 一未

## ○ 職務経歴

平成13年12月 留萌支庁総務部会計課  
平成19年 4月 留萌支庁産業振興部商工労働観光課  
平成21年 4月 保健福祉部福祉局ねんりんピック推進室  
平成21年10月 出納局会計事務センター  
平成24年 4月 **東京事務所（楽天(株)派遣）**  
平成25年 4月 経済部経営支援局中小企業課  
平成27年 4月 経済部産業振興局産業振興課

## ○ 現在の仕事

現在は、立地推進グループに所属し、企業等の誘致推進や道内外の企業がスムーズに立地を進められるための支援及び立地後のフォローアップなどを行っています。様々な業種の企業が立地を進める中、私はコールセンターやBPO(事務委託)、IT企業、データセンター等に関する立地の支援を担当しております。

北海道には大地震の発生などの自然災害リスクが少ないことや広大な土地、個性あふれる様々な地域があることなど、北海道ならではの魅力が沢山あります。誘致に関わる業務は、それらの情報を広く発信し、道内外さらには海外の皆様には北海道の優位性を認識していただき、北海道の経済に大きな効果をもたらす大変重要な仕事であると感じております。

## Q 派遣を打診された時の感想

私は、道庁の所管する様々な分野の業務を通じて地域に貢献したいという思いで入庁しましたが、派遣前は、会計分野の経験年数が長くなっていました。会計という専門分野を極めるのも一つですが、幅広い知識や経験を積みたいと考えていたので、企業派遣研修を打診された時は、是非、受けたいと思いました。これまで英語を活かせる分野の業務に携わりたいと思い、入庁後も自分で英語の勉強を続けていたため、英語を公用語として間もない「楽天(株)」への派遣が決まった時は、これまで学んできた語学力を試す機会を与えていただき、また、企業での実践的な英語を勉強できる機会となるので、喜びと期待に胸を膨らませました。



送別会で  
職場の仲間と

## Q 派遣先での仕事の内容、印象に残っている成果など

派遣先での業務は、企業が楽天のサイトを活用したインターネットによる海外販路拡大への支援、北海道のインターネット販売における流通拡大のための基礎データ収集などを行いました。

～ 主な業務内容 ～

- ・ 楽天のサイトで日本の企業が行う、海外向けネット販売の出店に向けた営業
- ・ 出店した企業の海外販売をサポートする業務
- ・ 売上げアップに繋がる企画の運営
- ・ 楽天サイト内「まち楽」を活用した北海道産品PRコンテンツの編集
- ・ 道内企業(食品ジャンル)のネット販売などに向けた掘り起こし
- ・ 流通対策商材の提案～「北海道米」の可能性について考察、北海道支社への提案

苦労したことは色々ありましたが、特に電話での営業活動が苦労しました。私は、電話に対する苦手意識があり、しかも営業の電話なので慣れるのが大変でした。派遣先では先輩社員から新入社員と同様に厳しく指導していただきながら、何とか業務を進めることができました。「営業」という言葉には言葉を巧みに操り、利益を得るようなマイナスイメージがありましたが、実際はそうでなく、相手の立場になって会話をし、相手の話を良く聞き、相手が必要としていると感じ取るのが大切であると実感しました。

そのような中、イベントで一度顔見知りになった企業さんが、その後の電話で出店を決めてくれたことや、海外販売の出店を始めてみたものの、実際の運営で困っていた企業さんから相談を受け、「あなたに話を聞いてもらって大変助かりました！」と言ってくれたことは、とても嬉しくやりがいを感じた瞬間で、印象に残っています。

## Q 風土・仕事の進め方など道庁との違い

### ・ 風土について

楽天(株)は、20代、30代の若い社員が多く、活気にあふれている印象がありました。さらに、時勢にとっても敏感で、常に現状を改善してより良くしていこうとする熱意を感じました。最近では、道庁でも新規採用の若い方が増えているので、若い活力を感じられる風土になっていくのではないかと考えています。

### ・ 仕事の進め方について

仕事はパソコンで完結することが多く、ペーパーレス化が進んでいます。また、担当者から決定権を持つ上司までのルートが短いため、担当者の企画したことがすぐ実行に移され、仕事にスピード感がありました。道庁は行政の立場があるので、同様に仕事を進めることは難しいと思いますが、業務の内容によっては意思決定の方法を改善するなどし、スピード感を高める工夫が必要であると思います。

楽天(株)では朝礼を行っていて、売上を伸ばした効果的な方を課内みんなで共有していました。このような成功事例の共有は個人の仕事の質を向上させ、職員全体でもより良い成果を生み出します。道庁でも職員表彰において、業務に関し顕著な成果や素晴らしい取組事例を情報発信しているので、その共有が進められると、職員一人一人の業務の質の向上、ひいては道の行政サービス全体の質が向上すると思います。

## Q 帰任後の派遣先との付き合い

現在、仕事上のお付き合いはありませんが、当時お世話になった人や親しかった人と、Facebookで情報交換するなどしてコミュニケーションを取っています。

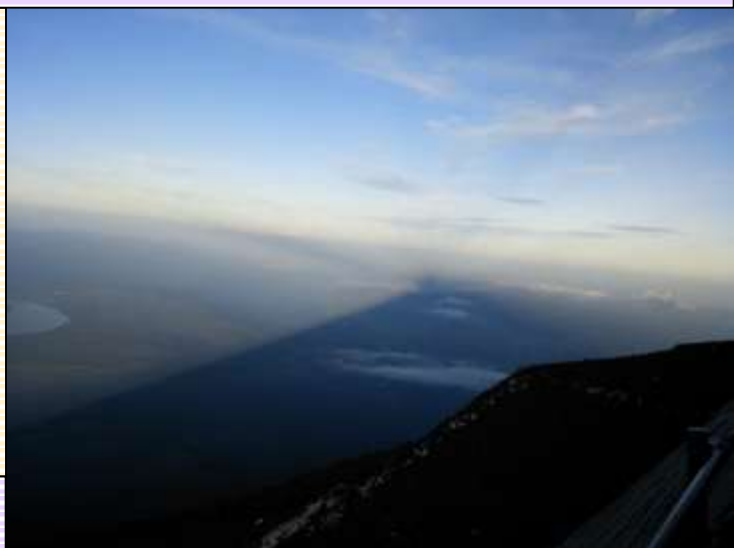
当時の社員の皆さんは、自分にとってかけがえのない貴重な財産です。そんな皆さんとのコミュニケーションの蓄積により、今後の道職員生活において、仕事上のヒントやアイデアになる有意義な情報が得られるものと信じています。

## Q 派遣先から得てきたもの

派遣を終えて、仕事に対する意識に変化がありました。派遣前は、自分の担当業務を着実に進めることにとどまり、それ以上のことについて取り組む意識が低かったように思います。

しかし、派遣先で社員の方々と仕事をしていると、現状に満足せず、常に高い目標を持って一人一人が仕事に臨んでおり、その皆さんの目標達成に向かってやり遂げる精神に強く感銘を受けました。

道行政も、解決が難しい様々な問題がありますが、私も問題の解決に向けて、そのような高い目標をもって意欲的に仕事に臨んでいきたいと思いました。



富士山（かげふじ）

## Q 外から見た道庁について感じたこと

道庁では、新規採用者が仕事に追われるばかりにならないよう、研修や勉強をする時間・機会があり、良い環境であると感じました。

また、幅広い年齢層の職員がいるため、後輩職員に対する先輩職員の指導に余裕があり、仕事がしやすい環境にあるので、そこは道庁の良い風土ではないかと感じました。

## Q 道庁と連携を図るべき事項など

楽天(株)と北海道は平成21年から包括連携協定を結び、地域産業のIT利活用の促進や道産品の販路拡大等のため、楽天のサイトでの情報発信など行っていますが、ITを活用した事業については、更に連携を進められる余地があると思いました。

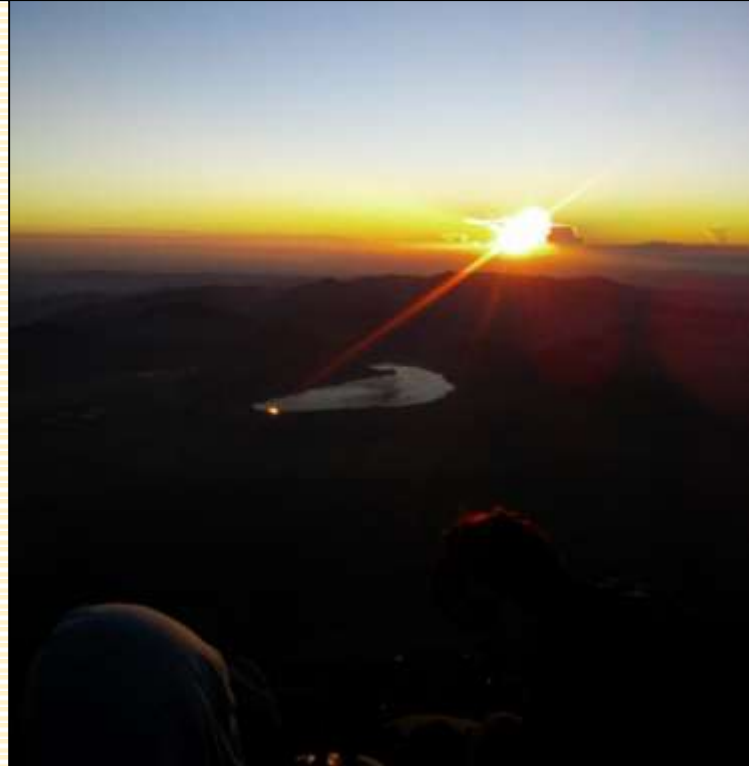
楽天(株)では、楽天市場のイベント企画と実店舗(物産展などのイベント)を連携させた地方物産の販売促進を行っています。北海道の物産展は全国的に人気が高いため、そのような事業について連携を図ることは、道産品の販路拡大にとって、効果的な事業となりうると感じました。また、海外向けのネット販売についての連携も、まだ他県での取組が少ないので、北海道が先進的に取り組み、先行者利益を得ることが可能ではないかと思えます。

さらに、楽天の旅行サイト(楽天トラベル)と連携を図り、物産・観光などの地域の魅力を発信することなども、連携して取り組める事業ではないかと思いました。

## Q オフやプライベートの思い出

職場の近くに社員の方がよく行く小さな居酒屋があり、そこで仕事帰りに飲んでおしゃべりすることが楽しかったです。東京生活は初めてで、知り合いもほとんどいなかったため、社員の方が仲良くしてくれたことがとてもありがたかったです。仕事で悩んだり、落ち込んでいた時も、社員の方に相談にのっていただき、頑張ることができました。送別会もそのお店で盛大に開催していただきました。

プライベートでは、東京近辺を色々旅行しましたが、特に富士山へ登ったことが思い出に残っています。とても良い天気の中、富士山頂できれいなご来光を見ることができ、感動しました。



富士山からのご来光

## Q 派遣を終えての感想、後輩への派遣のすすめ

初めは正直、期待いっぱい臨んだ派遣研修でしたが、実際に働き始めると、これまで自分が当たり前と思っていたことが企業の中ではそうではなかったり、違う組織の中で孤立感を感じたり、慣れない業務で自分のふがいなさに落ち込むことが多くありました。しかし、こうして様々な経験を積み、元気に派遣研修を終え、道庁に戻って来られたことは自信になりました。

派遣研修を考えている方は、是非、挑戦していただきたいと思えます。「百聞は一見にしかず」とよく言われますが、まさにその通りで、イメージと実体験では得られるものが全く違います。行政とは違う組織に入って、経験を積むことにより、道庁には出会えなかった様々なタイプの人と出会え、多様な価値観を共有することで自分の世界が広がるのが企業派遣の良いところだと感じました。経験することが皆さんの人生を豊かにし、今後の道庁人生をも変えるきっかけとなることと思えます。

経済部総務課

(H13年採用・一般行政)



主 任

相 楽 祐 介

## ○ 職務経歴

平成13年 4月 網走支庁西部耕地出張所  
平成16年 4月 網走支庁農業振興部調整課  
平成20年 4月 胆振支庁産業振興部農村振興課  
平成21年10月 胆振支庁地域振興部総務課  
平成22年 5月 経済部商工局産業振興課  
平成24年 4月 **東京事務所（伊藤忠商事（株）派遣）**  
平成26年 4月 経済部総務課

## ○ 現在の仕事

平成26年4月から平成27年1月まで、経済部の予算業務を担当していましたが、2月から、部長書記を務めさせていただいております。

主な仕事の内容としては、部長の打合せや面談等の日程調整、議会对応などを行っています。

この仕事を通じ、部長をはじめ、道庁幹部の方々の仕事のやり方や考え方を少しでも学べたらと思い、毎日奮闘中です。



## Q 派遣を打診された時の感想

道庁勤務も12年が経ち、「自分の仕事のやり方や考え方(視点)が、道庁だけでしか通用しないのではないか」との思いがあったので、あらためて、全く新しい環境に身を置くことで、もう一度仕事を見つめ直してみたいと考えたことが一番の志望動機です。

また、今回の派遣を通じ、民間企業の考え方や仕事のやり方などを学び、視野を広げ、現場ニーズを踏まえた、効果的な事業の立案ができるスキルを身につけたいと考えていました。



伊藤忠商事(株)社員証

## Q 派遣先での仕事の内容、印象に残っている成果など

金属カンパニー 原子力・ソーラー部 ソーラー第一課に配属となり、太陽光発電事業、いわゆるメガソーラープロジェクトの開発に取り組んでいました。主に、伊藤忠商事が保有する大規模メガソーラープロジェクト(20M以上)の立ち上げや中規模メガソーラープロジェクト(2M程度)の開発・売却を担当していました。

印象に残っている成果としては、自分が手がけた案件ではじめて、福岡県で2Mのメガソーラープロジェクトを成功させた時が印象的で、広大な土地(6ha)に太陽光パネルが敷き詰められている景色は爽快でした。また、その後も、数百億円規模の案件に携わらせていただいたことも非常に印象に残っています。

自分にとってまったく新しい分野の仕事であり、土地や建設、金融・投資関係など、関係分野も幅広かったため、まずは仕事の専門用語を理解することが第一関門でした。また、伊藤忠商事にとっても、太陽光発電事業は新たな挑戦であったため、社員の皆さんと一緒に暗中模索しながら、ビジネスの取組方法を考えながら、仕事を行ってきました。

## Q 風土・仕事の進め方など道庁との違い

伊藤忠商事は、会社の方針でもありますが、常に現場の声を聞き、現場に行くことを重視しているため、営業部門での裁量も大きく、ある程度の金額の事業であれば、営業部門(部)で判断・実施できるシステムとなっていました。

もちろん、会社の経営に大きな影響を与えるような投資や事業を実施するにあたっては、管理部門への社内承認手続きが必要となっていました。ある程度の裁量の中で動くことができるため、現実に即した的確かつ迅速な対応ができ、発想豊かな取組の創出に繋がっていると感じました。

道庁で全く同じようには行きませんが、こういったシステムをぜひ参考にいただき、より住民(現場)重視の行政に繋げていけたらと思っています。

## Q 外から見た道庁について感じたこと

あらためて感じたこととしては、やはり行政機関は、民間事業者にとって、大きな影響力があることを知り、一つ一つの仕事の重要性(責任)を感じるが多かったことです。

また、北海道の案件を担当していた際に、民間の事業者から「道庁は現実とズれているところがある」との厳しい声もいただいた経験があります。それらの事業者からの声を受け、もっともっと現場(企業)に出向き、日常から話せる体制・仕組みづくりが必要だと感じました。



お客様との懇親会



福岡県のメガソーラー (AM5:00 撮影!!)

## Q 派遣先から得てきたもの

伊藤忠商事では、現場(関係者)とのコミュニケーションをはじめ、企業との信頼関係の構築や連携(協力)を特に重視しながら、仕事の利益・発展性を的確に判断することが求められていました。

今回の派遣では、こうした仕事の取組方法を通じ、様々な関係者との交渉によるコミュニケーション能力の向上や企業との連携の考え方(手法)、事業の発展性等の判断能力の向上といった、様々なことを得ることができたと思っています。

## Q 帰任後の派遣先との付き合い

帰任後も、伊藤忠商事の方々とは連絡をとっており、今まで関わってきた案件の進捗状況など、様々な情報交換を行っています。

また、伊藤忠商事はもとより、当時関わりのあったお客様(企業)から連絡をいただくこともあり、道庁との連携事業の繋ぎや関係部署の紹介、北海道の情報を提供したりしています。

プライベートでも、北海道へ出張や旅行で来た方に、道内の案内や観光情報を教えたりしています。

## Q 道庁と連携を図るべき事項など

施策を検討する上で、伊藤忠商事のような幅広いネットワークのある企業との意見交換(情報収集)は非常に重要だと考えています。

特に商社のような企業は、様々な知識やノウハウを持っているため、施策を検討するにあたり、新たな考えや視点のアイデアを得られますし、当該企業や関連企業との連携事業の可能性をはじめ、そのネットワークを活用した道内外への事業展開が期待できると思っています。

(何より、いろいろ情報交換することで、現場ニーズを踏まえた、新しい施策のアイデアが生まれる機会が得られます。)

## Q オフやプライベートの思い出

伊藤忠商事の先輩にホームパーティに誘っていただいたり、後輩とディズニーランドに行ったり、逆に、同僚の北海道旅行をアテンドしたりと、様々な楽しい思い出があります。また、私の送別会を屋形船で開催してくれたこともとても印象的でした。

なお、国(経済産業省等)の方々との交流もあり、金沢や伊豆旅行に行ったり、飲み会をしたりなど、楽しく過ごしていました。

## Q 派遣を終えての感想、後輩への派遣のすすめ

今回の派遣を通じ、たくさんの人たちと出会い、やりがいのある仕事をさせていただき、本当に素晴らしい経験をする事ができました。また、派遣をサポートして下さった皆様にあらためて感謝申し上げます。

現在、派遣を考えている方の中には、不安でなかなか踏み切れない方もいるかもしれませんが、思い切って新しいことに挑戦してみることで、自分の成長であったり、新たな人との出会いであったり、予想以上の結果が得られると思いますので、ぜひ挑戦してみてください。



屋形船で送別会

環境生活部環境局  
循環型社会推進課

(H18年採用・環境科学)

主	任		
石	田	千	晶

○ 職務経歴

- 平成18年 4月 根室支庁地域振興部環境生活課
- 平成20年 4月 北海道環境科学センター自然環境部道南地区野生生物室
- 平成22年 4月 渡島総合振興局保健環境部環境生活課
- 平成25年 4月 **総務部総務課（北海道コカ・コーラボトリング(株)派遣）**
- 平成26年 4月 環境生活部環境局循環型社会推進課

○ 現在の仕事

循環型社会推進課で、主に、産業廃棄物に係る法律相談や不法処理事案への対応、調査・報告の取りまとめ事務等を担当しています。

事業者の方などから、これは産業廃棄物に該当するのか一般廃棄物に該当するのか、産業廃棄物に該当するのであれば、どのような許可を受けた業者に、どのようにして廃棄物の処理を委託するべきか、といった相談を日々受けており、廃棄物が適切に処理されるよう、廃棄物処理法等に基づき、慎重に判断して回答しています。

また、不法処理の通報を受けることもあり、振興局職員と協力して、状況の把握、改善指導等に努めています。

## Q 派遣に応募した理由

財政状況の厳しい道庁が、今後、様々な地域課題に取り組んでいくためには、これまで以上に、地域の企業や団体、住民の力を借りたり、一緒に考えながら、施策を効果的に進めていくことが必要だと思います。

このように考えていた時、仕事で北海道コカ・コーラボトリング(株)の北海道e-水プロジェクトの取組みに関わる機会があり、調べてみると、当該取組み以外にも様々なCSR活動(企業の社会的責任に係る活動)を実施している企業であることを知りました。

そんな北海道コカ・コーラボトリング(株)のCSR活動に向ける姿勢を学ばせてもらえば、地域との連携を図る上でのヒントが得られるのではないかと考え、企業派遣に応募しました。

## Q 派遣先での仕事の内容、印象に残っている成果など

経験させていただいた業務は多岐にわたりますが、最も記憶に残っているのが、同社の年始イベント“スタートアップミーティング”の準備・運営です。

このイベントは、同社社員の士気や団結力の向上を目的として毎年1月に開催されているもので、道内各地にいる同社事業所の社員も、この日は会場である札幌コンベンションセンターに集結して行われました。

準備・運営は、選出された若手社員十数名で行いました。私は、イベントの進行表・シナリオの作成を担当させていただきましたが、直前期は、ほかの準備メンバーとともに深夜残業の毎日でした。

このイベントは、これまで社内イベントとして行われてきたものですが、この年は、高橋知事を招いて、同社と道庁との包括連携協定締結式もイベントの中で行われました。知事を招く関係もあって、分単位の調整がイベントの直前まで続きました。

同社社員が集まる中で、包括連携協定が締結されたことは、北海道と一緒に成長していく企業になるのだという、社員の意気込みも高まるものとなり、準備は大変でしたが、道職員としてこのイベントに携わることができて本当によかったと感じています。



円山動物園での環境教室

ペットボトルとモーターで風力発電機を作りました

## Q 派遣先から得てきたもの

外部の知見や人脈を積極的に集積し、仕事を創造・改善していく同社の姿勢を学んだことで、仕事の取り組み方についての視野が広がったように思います。

現在の私は、仕事を創造するまでには至っておりませんが、情報のアンテナを広く張っておくことを心掛けるようになりました。

## Q 風土・仕事の進め方など道庁との違い

民間企業にもいろいろな人がいますが、輝いている人を見て感じたのは、いわば“公私混同”です。

公私混同というのは悪い意味ではなく、個人の目標と仕事の目標が一致しているという意味です。公私混同をしている人とは、例えば、今担当している仕事に関係する分野のフォーラムに、プライベートで自発的に聞きに行くような人や、仕事において、個人的なスキルや遊び心、人脈等を組み入れるような人のことです。

そのような、公私混同をして仕事を楽みつつ、かつ仕事を成功させるスキルを持つ人が同社には多くいるように思いました。

仕事は希望通りの配置になるとは限らないですし、業務が忙しく時間がとれないなど、理想通りにはいかないこともあります。仕事を楽み、自発的に、意欲的に進めることは、周りの人間を楽しくさせますし、仕事の成功にもつながるので、大切なことなのではないかと思いました。



コカ・コーラ クリスマス電車サンプリング

### Q 外から見た道庁について感じたこと

外から見ると、道庁は、やはり、お堅いイメージ(笑)があると思います。

法律や条例、規則などに沿って正確に実行する一方で、新しい技術や知見を取り入れて、クリエイティブに、楽しく仕事を進めることのできる環境をつくっていくことが必要だと思えます。

### Q 道庁と連携を図るべき事項など

同社には既に多分野で協力いただいているので、これ以上協力を求めるのは恐縮ですが、わがままを言えば、同社は、北海道限定の商品(ジョージアサントスプレミアム、いろはすハスカップなど)を製造・販売しているので、北海道新幹線開業に向けた北海道の観光PRに協力いただきたいです。

ユキちゃんとQooが並べば、きっと、楽しいものになると思います。

## Q 帰任後の派遣先との付き合い

北海道コカ・コーラボトリング(株)が地域貢献活動を盛んに実施していただいているおかげで、同社の同僚と再会する機会も何度かありました。

そのひとつ、当課が表彰している北海道ゼロ・エミ大賞※の今年度の優秀賞に、同社が受賞することとなり、その表彰式に立ち会えたことは、嬉しく思いました。

※特に優秀な廃棄物の発生・排出抑制の取組みを行っている道内の事業所を表彰し、模範的な取組みとして広く紹介する制度



矢吹前社長、上田前市長とさっぽろ雪まつり会場にて。右はQ○○、左のポーラーベア（北極熊）が私です。

## Q オフやプライベートの思い出

ゴミゼロの日（語呂合わせで5月30日）に合わせて、札幌市大通近辺で行われるNPO主催のゴミ拾い（北海道コカ・コーラボトリング(株)協賛）に参加したり、同社社員と札幌国際大学学生が札幌市清田区で実施している除雪ボランティアに参加したりして、一緒に汗を流したことが良い思い出となっています。

ゴミ拾いは帰任後の昨年にも参加しており、作業終了後には同社時代の同僚と一緒にランチするなど、楽しい時間となりました。

今年も是非、参加したいと思っています。



ゴミ拾い終了後の記念写真

## Q 派遣を終えての感想、後輩への派遣のすすめ

民間企業のCSR活動には、売上向上に期待する気持ちもありますが、会社も社員も地元が好きで、北海道と一緒に成長したいと感じていることが活動の大きな原動力になっていることが分かりました。

道庁にとって、北海道の将来を考えるパートナーである道内企業等での勤務経験は、今後の道政に携わる上で、きっと大きな糧になると思います。



派遣最後の日に  
広報・CSR推進部の皆さんと

環境生活部くらし安全局  
文化・スポーツ課  
(H13年採用・一般行政)



## ○ 職務経歴

平成13年 4月 空知支庁経済部商工労働観光課  
 平成18年 4月 十勝支庁産業振興部商工労働観光課  
 平成22年 4月 十勝総合振興局地域政策部地域政策課  
 平成25年 4月 **総務部総務課 (株)北海道フットボールクラブ派遣)**  
 平成26年 4月 環境生活部くらし安全局文化・スポーツ課

## ○ 現在の仕事

現在は、文化・スポーツ課でスポーツ振興を担当しています。

スポーツ関係団体への補助金交付事務、国の大臣表彰や道知事からの表彰に関する事務、道内4つのプロスポーツチームへの支援を担当しています。

グループとしては、トップアスリートと一緒にスポーツを体験する教室の実施や、東京オリンピック・パラリンピックに向けた合宿誘致の取組、トップアスリートを発掘・育成する事業など、様々なスポーツ振興に取り組んでいます。



## Q 派遣に応募した理由

コンサドーレへの派遣を打診された時、すぐに「お願いします！」と上司に返事をしていました。色々と不安に思う気持ちよりも、これまでももちろん、これからも携わることのできない分野での経験となるに違いないと思う期待の方が大きかったのを覚えています。当時の上司にも、貴重な経験になるので行ってみたいと後押ししていただき、前向きな気持ちになれました。

## Q 派遣が決まった時の家族の反応

家族はもちろん、友人や職場の方からも、「コンサドーレ札幌」への派遣ということで、これまでになく貴重な体験ができそうで楽しみだねという言葉がたくさんかけていただきました。そのほか、実は、当時の私はコンサドーレのこともよく知らなかったのですが、いろんな方に激励の言葉とともにコンサドーレの近況や選手の名前などを教えていただいたのも、周りの方の反応として印象に残っています。



派遣中の最後のホームゲームで職場の皆さんと

## Q 派遣先での仕事の内容、印象に残っている成果など

配属された部署は、ホームタウン活動という地域貢献活動とスポーツ振興を担当している部署で、施設の訪問、地域イベントへの出演を調整したり、子供向けスポーツスクールの実施などを担当していました。特に貴重な経験になったのは、マスコットのドーレくんの付き添い(アテンド)という仕事で、お客さんとのふれあいのお手伝いをします。会話のやりとりや、元気よく呼びかけたりすること、また、現場ではその状況に合わせて時間の調整やお客さんの誘導を瞬時に判断しながらやらなければならないので、慣れるまでは大変でした。ただ、人と接する仕事はやりがいを感じますし、判断力や、コミュニケーション力が鍛えられたなと思います。

## Q 派遣先から得てきたもの

現場での仕事をたくさん経験したことで、資料(マニュアル)に頼りすぎず、自分の頭と体で仕事を覚えることも大事だと思えるきっかけになりました。

サッカー教室で、子ども達にサインする選手とドーレくん

ドーレくんのサイン会



## Q 風土・仕事の進め方など道庁との違い

そこまで大きな違いは感じなかったですが、週に一度行っていた全体ミーティングでは、社長以下、社員は原則全員参加で各部署やチームの報告、今後の動きなどが話し合われます。各部署の課題は会社全体の課題として、常に意識し、みんなで解決していく姿勢を感じました。

道庁でも、それぞれの担当者が今、どんな仕事をしているのか、どんな課題をもっているのかをグループ内などで情報共有し、全員がそろって議論する時間を作ることも大事かと思います。



事務所の引越作業

## Q オフやプライベートの思い出

派遣期間が終わってからの出来事ですが、社員の皆さんとJALマラソンに参加したことです。(JALはコンサドーレのスポンサーです。) 当時加入したばかりの小野伸二選手のTシャツを着てコンサドーレをPRしながらみんなで完走しました。

また、同年代の社員も多く、食事をしたり、旅行に行ったり、今でも仲良くさせてもらっています。



社員の皆さんと参加したJALマラソン

## Q 道庁と連携を図るべき事項など

プロスポーツチームに対する注目度の高さや集客力を活用して、スポーツの分野をはじめ、他分野のプロモーション事業でタイアップすることにより、注目度が上がり、より多くの人たちへ情報を届けることができるのではと感じました。

例えば、コンサドーレでは近年、東アジア地域との地域間交流に力を入れていて、サッカーを通して経済や観光の分野でも「北海道」と「アジア」との新たなビジネスチャンスが期待できると思います。

## Q 帰任後の派遣先との付き合い

現在、文化・スポーツ課でプロスポーツの担当をしているため、仕事で派遣先と関わる事ができています。

コンサドーレ札幌の情報発信はもちろん、スポーツの普及活動という点においては、講師としてコンサドーレのスタッフに来てもらい、サッカーの実技指導や、スポーツ選手の栄養講座を開催することができました。

## Q 派遣を終えての感想、後輩への派遣のすすめ

コンサドーレの皆様が温かく受け入れてくださったこと、一人の社員として任せていただいた仕事があったことで、非常にやりがいを感じる1年間を過ごすことが出来ました。本当に感謝しています。

また、たくさん人とのつながりができたことも今後の仕事に活かしていきたいと思います。

派遣のすすめですが、不安もあると思いますが、自分の経験値のアップと、外の方に北海道の取り組んでいることを知ってもらうチャンスと捉えて、たくさん交流してください。

経済部総務課

(H17年採用・一般行政)

主任

木村義寛

## ○ 職務経歴

平成17年 4月 日高支庁総務部税務課  
平成20年 4月 北海道議会事務局総務課  
平成23年 4月 **東京事務所（(株)日本政策投資銀行派遣）**  
平成25年 4月 経済部産業振興局環境・エネルギー室  
平成27年 4月 経済部総務課

## ○ 現在の仕事

現在は経済部総務課で予算に関わる業務を担当しています。

部内の各課(室)で立案された施策の内容を整理し財政課に対して予算要求を行うこと(総務課では4人の予算担当者がそれぞれ2~3課を受け持っています)、部内予算の執行計画を整理し、円滑に事業を行えるよう予算の管理を行うこと、各種調査の取りまとめなどが業務です。

施策の立案は関連する事業の執行にあっている職員が行うため、内容を説明する資料には、基本的な背景知識が常識として記載を省略されていたり、各種の専門用語が登場したりする場合があります。立案した課の担当者に内容を確認し、財政課の担当者に必要性や有効性を伝えなければならないのですが、今は担当課の事業内容を理解するだけで精一杯という状況です。

## Q 派遣に応募した理由

学生時代にアルバイトの経験はありましたが、卒業してすぐ道庁に採用になったので、道庁以外の職場も社会人としての関わり方で経験して視野を広げたい、という思いから応募しました。

学生時代の友人達はみんな民間企業に就職していたので、今思えば、彼らが経験していることを自分だけ経験していないということに対する焦りのようなものもあったように思います。



新幹線に大喜び！

## Q 派遣が決まった時の家族の反応

当時は妻が第二子を妊娠していたので一緒に行くか単身赴任するかで悩みましたが、貴重な経験をさせて貰えることになって良かったねと、派遣の決定については好意的な反応でした。

なお、実家(静岡)の両親も、久しぶりに近くに住むからちよくちよく会えるな、と大いに喜んでくれ、実際に週末にはよく実家に帰っていました。



御殿場～久しぶりに家族が揃いました。

## Q 派遣先での仕事の内容、印象に残っている成果など

配属された部署は産業調査部という、企業への融資ではなくシンクタンクのような業務を行うところで、業種単位で業界の動向を分析する班でエネルギー関連業種を担当していました。

業務は主に新聞や書籍、インターネットなどから情報を集めて整理・分析するというもので、着任時点で専門知識を求められることはありませんでしたが、その後は講演を依頼されることもありました。新たに調べなければならない部分もあったので、準備が本当に大変でした。



執務室・・・講演の資料づくり大変でした

## Q 風土・仕事の進め方など道庁との違い

ミーティング、打ち合わせが非常に多くありました。部長、課長、全業種担当者が集まって直近の業界動向を報告するミーティングが毎週行われるほか、進行中の調査案件の進捗状況等について課長と頻繁に打ち合わせを行っていました。

組織の規模や業務の性質にもよりますが、担当者が部長などの最終決定者まで直接説明する、職員の意識頼みにせず報・連・相を行うシステムを整備する、というのは取り入れるべき場面があると思います。



派遣中にオフィスの引っ越しがありました。週末でしたが早速業務にあたる方も。

## Q 外から見た道庁について感じたこと

別の企業に派遣されていた方からも新人の裁量が大きかったと聞きますが、日本政策投資銀行でも新規採用の職員に10年目の職員と同じ業務が充てられていました。プレッシャーもありそうですが、新人にも大きな仕事を与えてその分ディレクションを徹底するというスタイルなのだと思います。

道庁では比較的、任せて大丈夫そうな軽めの業務から徐々に与えていくことも多いですが、新人が「仕事してる！」という充実感が得られるような仕事の与え方、教え方をしていくことが必要だと思います。



ミーティングルームからはスカイツリーが見えました。

## Q 帰任後の派遣先との付き合い

毎年数回、日本政策投資銀行への派遣経験者（道、札幌市）と同行の方とで集まって懇親会が催されています。派遣が決まってから実際に派遣されるまでの間にも呼んで頂けて、その時知り合った方とは後に産業調査部と一緒に仕事をしました。業務の都合などで参加率5割程度になってしまっていますが、行くとたびに自分の不勉強に恥じ入りつつ良い刺激になっています。

## Q 派遣先から得てきたもの

金融という業種柄なのかも知れませんが、事実にとだわるという姿勢が徹底されていました。調査内容を社外に向けて発表することもあるため、結論を思い込みで作らないこと、事実を積み上げて分析し、論理的に説明することを意識する必要があり、とても良い勉強になりました。エネルギー業界に関する知識のほか、説明の仕方を訓練されたことは今の業務にも活かされていると感じます。

## Q オフやプライベートの思い出

噂には聞いていましたが東京はランナー人口が多く、日本政策投資銀行にも仕事終わりに皇居ランに繰り出す方がいました。私も流行に乗って皇居ランナーになろうかと思ったのですが、体力の問題で(2周目の途中でバテます)代々木公園ランナーとなりました。派遣中の兩年とも、職場の仲間とリレーマラソンの大会に参加して汗を流しました。

また、学生時代の友人と富士登山に行ったり、両親と20数年ぶりに丹沢歩きをしたりと、よく身体を動かす2年間でした。



富士登山 ~ この後、降り口を間違えて大変なことに・・・。



所属していた産業調査部のみなさんと

## Q 道庁と連携を図るべき事項など

日本政策投資銀行には地方自治体への提案やアドバイスを行う部署があり、地域発展に向けた取組等を行っている情報やノウハウの蓄積があることから、日頃から情報交換を行うと施策検討に活かされると思います。前述の懇親会のほかに、私はまだ参加できていませんが若手職員同士の勉強会も開催されているようなので、積極的に参加してざっくばらんに話の出来る関係が広がっていくと良いと思います。

## Q 派遣を終えての感想、後輩への派遣のすすめ

自分より能力の高い方々が揃って自分より自己研鑽に励んでいる様を見せ付けられたという一事だけでも、行ってきた甲斐があったと思います。圧倒される場面があるかも知れませんがそれはそれで後で励みになりますし、楽しく仕事をできる環境が整っていますので、是非飛び込んでみてください。



道職員活躍事例集（派遣編④）

平成27年5月  
北海道

---

【ご意見などがありましたらこちらまで】

北海道総務部人事局人事課人事グループ

電話：011-204-5078（直通）

F A X：011-221-6399

電子メール：somu.jinji10@pref.hokkaido.lg.jp